

琉球大学学術リポジトリ

豚の飼い方を改めましょう (つづき)

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 石垣, 長三 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20019

豚の飼い方を改めましょう

(つづき)

三、どぶ飼いを改めて豚のし好に適する濃度で飼料を与えるようにしましょう。どぶ飼いというのは多量のお湯や水で飼料をうすめ、水様状にして与えることです。この飼い方は戦前からの悪いくせで、今後どうしても改善しなくてはいけない問題だといえます。水分が多いとなぜ悪いかというと、余分の水はいつたん豚体に吸収されて、次に尿として排泄されるのですが、その際貴重なエネルギーが消費される。又フォイト氏の報告によりますと蛋白質の分解も促進されるということですから飼料摂取量が減つてくるし、場合によつては下痢をすることもあつて、それを悪いくせとづくめということになります。心すべきことです。それではどの位の濃度にすれば豚の食いつきもよく、又保健上もよいかということになります。暑い沖繩では当然本土より水の必要量は増えますので、本土の試験結果をそのまま利用することはできないが、それを基礎にして考えると、大体飼料を軟いかゆ状にして与えたらよいと思えます。もしそれでも水を欲するようでしたら、給餌後に清水を与えるようにすれば結構です。豚が飼槽の中に顔を突つこんで、ぶくぶくいつているのは、飼料に水分がおおすぎる証で、豚は水中で餌を求めているのです。あなたの豚はいかがですか、可愛い豚に大平洋で魚を求めるとか如き苦労をさせないように、反省しましょう。

四、必要時期に必要な量だけ運動させるように心がけましょう。養豚家の中には豚は運動がらいと頭からきめつけている人がいるし又運動させると肥りが悪く不経済だという人もいますが、この何れの言も当を得ていません。但し必要以上に運動させた場合は後者の言のようなこともおこり得ることですが、そのような例は一般農家の飼養実態からして考えられないことです。最近筆者が学生に調査させた資料によりますと、調査農家の約九九パーセントが全く運動させていないという実情です。運動させるとどのような利益があるかという点、育成期に筋骨及び内臓諸器官がよく発達して次にくる肥育又は繁殖の強固な土台が出来上るといふことが先ず第一にとりあげられます。さらに運動させた豚を肥育すると、赤肉の中に脂肪が入りこんで、いわゆる霜降り肉という良質の肉ができるし、又肥り方も運動させない豚に比べて良好です。参考のため本土での試験結果を紹介し、ますと次の表の通りです。

区	分	一日平均増体量	増体一キロに要した飼料所要量
予め運動させたもの	四九五グラム	四、二キロ	(一三二匁)
	(一三二匁)	(一四一匁)	
運動させないもの	四〇九グラム	三、一キロ	(一三六匁)
	(一三六匁)	(一三六匁)	

これによると運動させた方が肥りもよいし、飼料の利用率も高いから結局経済的だということになります。さらにそれだけに止まらず運動をすること当然日光にも当るのでビタミンDが得られるし、

豚は又好んで土を掘りおとして食べるので土中の鉄分をとつて血液を浄化させることになり、従つて適当な運動であれば効あつて害なしということがいえます。輸出豚の肉質を改善するといふ点でも飼料の質の問題と関連して育成期間中の運動は今後どうしても勵行していただきたいものだと思います。最後に農村で豚の病気を運動と関連させて、誤解をしておられることがあるので、念のためその一例をとりあげて簡単に説明を加えることにします。八重山地方では豚を運動させるとミミズ、その他土中の虫を喰つて猪になるといわれて、農家では運動させることを嫌います。これはミミズと豚の肺虫症という病気と関係があるからです。即ち豚には肺虫という二、四種類の寄生虫がいて、これが主として気管枝に宿つて豚体に害を与えるのですが、その仔虫がミミズの体内に寄生しているのです。従つてこのようなミミズを食べると豚は肺虫症にかかつて栄養状態が悪くなり、発育もおくれて猪のような体形になる理です。その外汚れた土中には他の寄生虫卵や病原菌も含まれているので、豚の保健衛生上極めて具合の悪い事がおこります。従つて運動場の土はできるだけ取り換えたり又時々ミミズの駆除もするようにすればこのような被害は一掃することができます。こういう措置をしないで、豚の運動をさげるといふことは、吾人が子に運動はたまにけがをするから、やるものではないと教えてその正常発育を阻害してしまうようなもので、親として感心した措置とはいえません。読者の村にもこれに似たことがありませんか。

(おわり)

(石 垣 長 三)